

5月21日(月)

平らな所に生きる

聖書朗読 詩篇 26篇

あなたの足の道筋に心を配り、あなたのすべての道を堅く定めよ。右にも左にもそれではならない。あなたの足を悪から遠ざけよ。 箴言 4：26-27

「この庭の手入れは大変よ」と友達が言っていたのを思い出しました。私は今まさに、庭の手入れの最中で、ブラックベリーやアメリカハナズオウが生い茂る庭の中で、庭いじりの道具を持って奮闘しています。しかも、太陽はカンカン照りで、息もハアハアしながらの作業です。この庭は傾斜があるので、足元もよく確認しないとイケません。ケンタッキー州東部の丘の中腹にあるこの約14平米の庭の手入れは、かなりの覚悟が必要なのでした。この庭に関しては、「この庭の手入れは大変よ」と否定的に考える人の意見が正しかったように、私も今になって思いました。

この庭付きの新しい家を初めて見学した時、私はすぐに一目ぼれしました。松の木があり、自然に恵まれ、アパラチア山脈のふもとで、谷は霧で満たされる場所でした。家を買って間もなくして、友人がこの新しい我が家を訪ねて来ました。その友人は、傾斜のある庭を見て「あら、こんなに傾斜がある庭を、あなたお手入れ出来るの?」と言いました。その時、私はその友人の言葉を深く考えませんでした。照りつける日差しの中で60度も傾斜のある庭を手入れすることは、本当に大変であることが分かりました。そして、傾斜がない平らな土地にある庭が、どんなに便利かということをつくづく感じました。

詩篇や箴言等を書き記した人々は、平坦な土地に家を建てることの賢さについて書いています。平坦な土地に家を建てることは、クリスチャンの生き方と重ねて考えるならば、神様のみこころに従った歩みをするということです。それは具体的には、例えば、他のクリスチャンたちとの交わりを大切にする歩みであり、祈りを大切に、いつも誠実であり、またどんな状況でも神に信頼する歩みです。詩篇26篇の筆者はそのような歩みをする者が受ける祝福について記しています。『私の足は平らな所に立っています。私は、数々の集まりの中で、主をほめたたえましょう』(12節)。

讃美歌 294

祈り 父なる神様、私達の人生の土台を点検することが出来るよう、霊的な目を開かせてください。霊的に意味で平らな土地、つまりあなたのみこころ・知恵を私達の人生の土台とすることが出来るよう、助けて下さい。
イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ファウン・ナイト 1998年

今日の日

2018年5月21日～5月27日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

5月22日(火)

旅人のための詩篇

聖書朗読 詩篇 121篇

あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます。

詩篇 139:3

詩篇121篇は「旅人のための詩篇」と呼ばれています。最後の8節が『主は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる』と家から離れている人達を励ます内容となっているからです。

詩篇121篇が書かれた当時と現代とでは、旅の方法はまるで違います。現代では東海岸のニューヨークで朝食を食べ、飛行機で移動し西海岸のロサンゼルスで昼食を食べることもできます。多くの人々が、日々長距離の移動をしています。

現代に生きる私達は、詩篇の時代の人々よりも短時間で長距離を移動することが出来ます。しかし、神様による守りを必要としていることは、昔も今も同じではないでしょうか。この信仰の詩である詩篇121篇を書いた人のように、創造主である神にこそ目を向けたいと思います。神様に守って頂き、危険から守られるよう、そして何よりも私達の魂が守られますよう、祈りたいと思います。私達がどこに居ようと、神様は私達を見守ってくださいます。

私が蹠の翼をかって、海の果てに住んでも、
そこでも、あなたの御手が私を導き、
あなたの右手が私を捕えます。
(詩篇139:9-10)

讃美歌 301

祈り 父なる神様、私達家族が家に居ようと、離れ離れの場所にしようと、いつも私達を見守って下さることを感謝します。いつもあなたの愛に包まれていることを思い起こさせて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ハワード・A・ホワイト 1971年

5月23日(水)

神の義

聖書朗読 詩篇 146:1-10

主は在留異国人を守り、みなしごとやもめをささえられる。しかし主は悪者の道を曲げられる。 詩篇 146:9

神様の義について、聖書にはしばしば言及があります。『正しい方、直ぐな方である』(申命記32:4),『正義の神、救い主、わたしをおいてほかにはいない』(イザヤ45:21),『主は、その町の中にあつて正しく』(ゼパニヤ3:5)とあります。さらに、イエス様は義をもたらすお方としてこの世に再臨されることになっています。イエス様をもたらす義は、聖書全体が全体を通して教えている大切な教えの一つです。

神様は、義なるお方で、汚(けが)れが全く無く、神聖なる方です。しかし同時に、恵みと愛、そして慈しみに満ちた方でもあられます。そういったご性質を、神様は持つておられます。罪を犯し、迷う人々に対しても、神様は寛大な愛で、私達を救いたいと思っておられます。そして神様は、神様の義を保ちながらも、私達を罪から救うため、大いなる御業を成して下さいました。それこそ、神の一人子であるイエス様を私達の救いのために与えて下さった、という出来事です。

神様がその義を保ちつつ、私達を救うためになして下さったことは、私達の胸を打ちます。一人子であるイエス様を私達の救いのために与えて下さるとは、何と深い愛でしょうか。神様の御名を絶えることなく讃美しましょう!

地に住まう全ての者よ
高らかな声で主に向かい歌え。
畏れつつ主に仕え、その誉れを告げ知らせよ
主の御前に来たりて歎べよ。
讃美しつつ主の門に入り
(「よろずのくにびと」(讃美歌4番)より ウィリアム・キース)

讃美歌 262

祈り 神様、御名を讃美します。あなたは義と愛にあふれ、神聖な方です。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ダン・コーレル 1984年

5月24日 (木)

主をほめたたえよ

聖書朗読 詩篇 148篇

彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。

詩篇 107:8

この地上で生きる私達は、不完全さゆえに、神をほめたたえたいと感じるのに時間がかかることがあります。しかし、神様の存在、神のこことば、神がなさることに私達が十分に心を留める時、私達は神の素晴らしさに気づき、神をほめたたえたいと思うのではないのでしょうか。

本日の聖書朗読箇所は、全能の神様をほめたたえる内容です。天地万物の創造主であり、そして万物を御手に治めておられる神様をたたえています。全能である神様が全てを造られたのです。そして被造物である動物、植物、そして海や山など大自然は、全て神様のご栄光を映しているとも言えます。ヨハネは、黙示録の中で『また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、栄光、誉れ、感謝をささげる』(黙示録4:9)とも記しています。

また、創造主なる神を讃える気持ちは、私達のうちからも湧き起ってきます。私達のうちに湧き起こる神を讃美する気持ちは、大いなるお方である神を讃えるのにふさわしい讃美の言葉となって、私達のうちに湧き起こります。そうした神を讃える讃美の言葉として、私達には詩篇の言葉も与えられています。私達が心から神様を讃美したいと思う時、私達は(詩篇の作者たちと同じように)『ハレルヤ。天において主をほめたたえよ。いと高き所で主をほめたたえよ』(148:1)と心を込めて讃美することが出来るのではないのでしょうか。

讃美歌 II 編 161

祈り 神様、霊的に優れた判断力を与えて下さい。威厳、力、知恵、愛に溢れる方であられるあなたを、心から御名を讃美できますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

K・C・モザー 1963年

5月25日 (金)

真に「幸せ」とは？

聖書朗読 詩篇 128:1-6

みことばに心を留める者は幸いを見つける。主に拠り頼む者は幸いである。

箴言16:20

アメリカの独立宣言には、人々はみな幸せを追求する権利があり、それは奪われることない権利だと書かれています。何が人々を幸せにするのでしょうか？

ある雑誌が読者にアンケートを取り、どんな人々が最も幸せだと言えるのか、調査しました。その結果は、作品作りをする職人、赤ちゃんをお風呂に入れているお母さん、夜中緊急の手術があるからと呼び出された外科医、といった人々が幸せだと考えられている、とのことでした。

イエス様が山上で語られたいわゆる「本当の幸せ」についての教え(マタイ5:3-12)は、終わることのない真の幸せについて考えるヒントになっていると思います。イエス様の教えから、特に次の二つの点を大切な点として挙げる事が出来ると思います。第一点目は、真の幸せと私達の心の中にある考え方との間には、密接な関連性があるという点です。言い換えれば、真の幸せと私達が置かれている環境・立場との間には、それほど密接な関係はないのです。要するに、私達の態度により、私達が真に幸せかどうかが決まる、ということです。それゆえ、主は言われるのです。『心の貧しい者は・・・、悲しむ者は・・・、柔和な者は・・・、義に飢え渴く者は・・・、あわれみ深い者は・・・、心のきよい者は・・・』(マタイ5:3-8)。このように主は、私達自身の心(の在り方)に焦点を当てて、教えておられます。

そして二点目として、真の幸せは、私達が神様に自分自身をお委ねして自分自身をお捧げする時与えられる、という点を挙げる事が出来ると思います。私達が心を開き主を受け入れ、主のご支配の中に自分自身を委ねなければ、真の幸せを体験することは難しいと思います。主イエスは、平和をつくろうとする人や義のために迫害される人を幸いであると仰っています。心が神様に対し開かれ、自分自身を神様にお委ねして生きる時こそ、(外見的には難しい状況であっても)その人は真の幸せを見出すことが出来るのです。神様のみことばに拠り頼みつつ、私達も真の幸せ・祝福に与りましょう！

讃美歌 498

祈り お父様、私達や周りの人々が、真に幸せになるための選択ができるよう、知恵を授けて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ハロルド・ハゼリッ プ 1974年

5月26日(土)

神様へ向けられた心

聖書朗読 詩篇 26篇

私を弁護してください。主よ。私が誠実に歩み、よろめくことなく、主に信頼したことを。
詩篇 26:1

C. S. ルイスの『ナルニア国物語』には、様々なキャラクターが登場します。そしてキャラクターたちの、互いに忠実・誠実であろうとする姿が描かれています。ピーパー夫妻は仲間であり、アスランを信用することにより知恵を持ちました。「泥足にがえもん」というキャラクター(東の沼地の沼人)は、とても悲観的な性格ですが、アスランへの奉仕は絶対的とも言える信頼出来るキャラクターです。私のお気に入りのキャラクターはリーピーチーフです。とても勇敢なネズミです。彼はやや自信過剰で、傲慢になる時もありますが、恵みを受けていることを心から楽しんでます。リーピーチーフはアスランの味方であり、自分は味方であることを皆に知ってもらいたいと思っていました。

リーピーチーフが自分の思いを皆に知ってもらいたいと思ったように、ダビデも自分自身の思いを神様に知って頂きたいと願ったことが、今日の聖書朗読箇所から伺えるように思います。つまり、ダビデは自分の心と向き合い、自分は神様に対し誠実に歩み主に信頼したこと確認し、そのことを主に知って頂きたいと願いました。この時点では、ダビデはまだ自分自身の弱さや罪には十分に気付いていなかったかもしれませんが、主に対する誠実さや信頼をはっきりと言い表せることは、素晴らしいことであり、大切なことでもあります。もちろん私達には、弱さがありますから、神様の憐れみという恵みが必要です。しかし、だからと言って、(ダビデのように)主に対し誠実であり主に信頼を置くことを私達の目標としなくてよいということではありません。(『ナルニア国物語』の)リーピーチーフとダビデは、どちらも高慢になりがちという点で少し似ているかもしれません。それでも、主に対する誠実さや信頼をはっきりと言い表すことが出来る信仰には、私達が学べる面もあるのではないのでしょうか。

讚美歌 267

祈り 神様、私達があなたに信頼し、あなたにお従いしていく者であるということを、心に刻むことができますように。揺らぐことのない信仰を持てるよう助けて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

デイヴィッド・ラングフォード 1998年

5月27日(日)

神様にこそ信頼を置く

聖書朗読 I ペテロ 5:6~11

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。
I ペテロ 5:7

その日、アルバーカーキ空港には、週末スキーを楽しんだ後帰宅する人達、里帰りを終え大学へ戻る学生達、そして搭乗を待つツアー観光客たちなど沢山の人が居ました。待合室は機内持ち込みのスーツケース、リュック、スキー用品、防寒具、バックなどで溢れ返っていました。

そんなところに突然、ある若い父親が双子の娘達を載せた乳母車を押してやって来ました。双子なので、席が二つ並んだデザインで車輪が3つある、普通の乳母車よりも大きいタイプです。荷物が多い所をどう通過するのか見ていたところ、上手く重心を変えて、一つのタイヤでバランスを取りながら通って行きました。乗っていた女の子達はだいぶ揺れを感じたにちがいません。しかし、親子には信頼関係があるので全く心配している様子や、恐れている様子はありませんでした。むしろ、でこぼこで普段とは違った動きをする乳母車を楽しんでいるようにも見受けられました。お父さんは女の子達の視界には入っていませんでしたが、親子の間には完全な信頼関係があることが伝わってきました。

私達の人生においても、人生のでこぼこ道や何らかの辛い時を通過しなくてはならない時があります。しかし、私達は神様の御手の中にあります。どんな場面でも私達を前に進めてくださる神様にこそ信頼を置き、人生を歩みたいものです。

讚美歌 291

祈り 神様、時に人生には辛い場面もあり、障害物だらけだと思う時もあります。しかし、全てはあなたの御手にあることを思い起こさせて下さい。より一層あなたに拠り頼むことができますように。私達は神様に愛されており、何も恐れる必要がないことを思い起こさせて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スティーヴン・S・レムリー 編集者